

青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」派遣教員レポート（平成25年3月分）

氏名：田村陽子（広島県立広島北特別支援学校）

現地勤務先：キト市役所教育課

○2年間の出来事

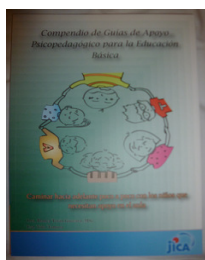
平成25年3月 最終号

Gracias!（スペイン語でありがとう!）

みなさん、お元気ですか？勤務校の子どもたちに別れを告げてから、もう2年が経つんだと、改めて時間の流れの早さを感じています。

せっかくエクアドルで生活、仕事をする機会を頂いたのだから「エクアドルの生活にどっぷりとつかってしまおう!」と決意して始めたエクアドル生活。しかし、生活習慣、宗教、教育システム、家庭環境、障害児を取り巻く環境、言語等、様々な違いは、時に知らぬまにストレスとなり、私を苦しめることもありました。でも、頑張っている姿は、必ず誰かが見てくれている、困ったときには助けてくれる、多くの友達、ホームステイ先の家族に支えられての2年間で私が得たものは、本当にかげがえのない経験だったと感じています。

お世話になった全ての人に感謝の気持ちを込めて、最終号は私の素敵な仲間を紹介します。しかし、その前に・・・。11月から取り組んできた、特別支援教育に関する本がやっとできましたので、少し紹介します。



2月26日に、本についての研修会をしました。多くの教育心理士が、本の完成を喜んでくれました。



～生活編～



本当の家族のように私を受け入れ、日々私を支えてくれました。彼らから、エクアドルの習慣、文化、宗教、スペイン語等、多くのことを学びましたが、一番私が学んだことは、家族のことを思う強い気持ちと一緒に過ごす時間の大切さです。

ホームステイ先の家族

私はできるだけ教会へ家族と一緒に通い、地域の人々との交流を図ってきました。

教会での活動を通じて、彼らの物事の捉え方、感じ方、考え方を知ることができたことは、エクアドルで仕事・生活をする上でとても役に立ちました。



地域の教会の仲間

～仕事編～

キト市役所の同僚



誰か一人が欠けても、このチームは成り立たない！研修会、パンフレット作りと、私の活動を一番近くで支えてくれた仲間です。エクアドルの特別支援教育を、これからもぜひ押し進めていってほしいと思っています。



各学校に勤務する教育心理士。スペイン語でうまく説明できなくても、私が伝えようとしていることを知ろうと、粘り強く耳を傾けてくれました。



以前の通信でもお伝えしましたが、7月に行われた世界各地から特別支援教育に関わる人々が集まったの研修会に参加できたことも、私の大きな財産の一つです。研修会後も、連絡を取り合い、一緒に活動しています。日本に帰ってからも、ぜひ情報交換を続けていけたらと思っています。



少しはエクアドルのことを身近に感じていただくことができたでしょうか。ぜひ、機会がありましたら、エクアドルを訪れてみてください。きっと素敵な仲間に出会うことができ、貴重な体験ができると思います。

私を支え、応援してくださった広島のみなさん、本当にありがとうございます。4月からは広島で、また自分にできることを少しずつ実践していきたいと思っています。